



職員と小学生に迎えられる、やすさん

【特集】

小規模多機能型居宅介護

いつまでも住み慣れた地域で

介護が必要になっても住み慣れた自宅に住み続け、家族や親しい人々と共に、不安のない生活を送りたい——これは多くの人が願うことではないでしょうか。平成18年に創設された、介護保険のサービス「小規模多機能型居宅介護」を利用して、そんな暮らしを実現している人たちがいます。

いつまでも自分らしく

「こんにちはおばあちゃん」

「今日は小さなお嬢ちゃんが出

迎えてくれるんだね」

小学生に迎えられて笑顔を見せるのは、介護施設の「まんだぎの家玲光苑」（松崎）に近所から歩いて通う清宮やすさん（87歳）。

今日は、近くの八生小学校から子どもたちが職場体験学習に来ていました。「まんだぎの家玲光苑」では、利用者に地域とのかか

わりを持ってもらおうと、地元の子供たちとも交流したり、積極的に地域に出掛けるなどしています。

高齢になり介護が必要になってくると、つい外に出るのがおっくうになったり人付き合いを避けたりしがちに……。でも、回覧板を届けるなどの近所付き合いをしたり、散歩に出掛けて世間話に花を咲かせたり、近くの商店に買い物に行ったり、住み慣れた地域で、若いころと同じように自分らしく

暮らしたいと願うお年寄りは多いのではないだろうか。

そんな暮らしを実現している、やすさんが利用するのが、「小規模多機能型居宅介護」。平成18年4月の介護保険制度の改正により創設されたもので、介護が必要になっても住み慣れた自宅に暮らし続けられるように、必要に応じて「通い」や「宿泊」、「訪問」を組み合わせ、お年寄りをサポートするサービスです。

現在、小規模多機能型居宅介護を受けられる市内の施設は、「まんだぎの家玲光苑」と「さわやかリビング成田」（本町）の2カ所あります。

みんな顔なじみ

「ありがとうございます」

東町に住む渡邊みつさん（94歳）は、娘のように優しく背中を流してくれる職員に丁寧にお礼を言います。

「ここにはお友達もいるし、職員も優しいよ」。多少耳は遠くなりましたが、おしゃべりが大好きなみつさんは、送迎を利用して週に5回ほど「さわやかリビング成田」に通い、夕方には自宅へ送ってもらいます。

「さわやかリビング成田」の職員と全部で20人いる施設の利用者は、皆みつさんの顔なじみです。

「顔なじみ」の秘密は：施設の規模が小さく、事前に登録した人だけが利用するからです。

例えば、デイサービスでは「大きな施設を不特定多数の人が入れ替わり立ち替わり利用する」のに対し、小規模多機能型居宅介護は「自宅のような建物を友達同士で利用する」というイメージ。

特に認知症の人などは、広い場所で大勢の人がいる環境に不安を感じ、自宅に帰りたいと言い出したり、宿泊してもなかなか眠れなかったりといったこともあるよう

です。小規模多機能型居宅介護なら、顔なじみの職員や利用者に囲まれて、安心して生活することができます。

一人暮らしでも安心

一人暮らしをしている、みつさんですが、週末には都内に住む娘さんが食事を作りに来てくれます。普段は、娘さんが冷凍してくれたおかずを温めるなどして自分で食事を準備するのだそうです。

平成21年版高齢社会白書によると、平成19年におけるわが国の全世帯数の約9%が、みつさんのような65歳以上の独居者になっています。

ます。

高齢者の一人暮らしは、何かあったときに不安です。急に体調が悪くなったら。転んで動けなくなったら…。家族が近くに住んでいなければ、なおさらでしょう。

何かがあつたときに誰かが駆け付けてくれるという安心——これは、みつさんのような高齢者が、自宅で一人暮らしするための大切な要素ではないでしょうか。

小規模多機能型居宅介護では、スタッフが24時間待機。緊急の場合にも必要に応じて訪問するなどし、通いを中心に「自宅で継続して生活」できるよう、24時間・365日体制で支援します。



みつさんの心がホッと安まる空間



自宅に近い雰囲気の内装



利用者同士で世間話が花が咲く

小さな変化を見逃さない



職員と家族の間でやり取りされる連絡帳。
「食欲がなかった」「気分が乗らない感じ
だった」といったように、利用者の体調
や日中の様子、活動内容などが一目で分
かる(まんざきの家玲光苑)

お年寄りの環境は十人十色

本町在住の渡邊重子さん(81歳)は家族と同居していますが、「さわやかリビング成田」を利用しています。「宿泊することもあるけど、家族のような職員ばかりで落ち着くよ」

重子さんのように家族と同居していても、家族の仕事の都合や、高齢者が高齢者を介護する「老老介護」の事情などから、在宅での十分な介護を受けるのが難しいケースもあります。

「介護する家族が病気になってしまった」「急な仕事が入った」といったケースでも、小規模多機能型居宅介護なら、利用者の希望や容態に応じて「通い」から「宿

泊」に、「訪問」から「宿泊」というように、柔軟に対応することができるようになっています。

一口にお年寄りといっても、その生活は一人一人さまざまです。早起きの人、家族が出勤した後にゆっくり起きて食事をする人、認知症で心を閉ざし気味の人…。

従来型の介護保険サービス、例えばデイサービスなどでは、決められた時間内に大勢の利用者を受け入れるために、お年寄りに施設側の事情に合わせてもらわなくてはならないこともあります。

小規模多機能型居宅介護なら、個別の事情に合わせて柔軟にサービス形態を変えながら、在宅での生活が継続できるように支援を受けられます。

住み慣れた地域で暮らす

これまで、「一人暮らしは不安だから」家族に迷惑を掛けたくないから」といって、自宅で暮らすことをあきらめていた人にとって、小規模多機能型居宅介護は住み慣れた地域で暮らすための大きな選択肢となるでしょう。

市では、介護保険事業計画を策定し「住み慣れた地域で安心して暮らせる交流のまち成田」を基本理念に、介護保険事業に取り組んでいます。今後も、小規模多機能型居宅介護をはじめとする身近な地域でのサービスを、充実させていきます。

※くわしくは介護保険課(☎20・1545)へ。



宿泊する部屋で談笑する重子さん

小規模多機能型居宅介護



Q1 市内には小規模多機能型居宅介護施設はいくつありますか

A1 市内には現在2カ所の施設があります(「さわやかリビング成田」(本町)、「まんざきの家玲光苑」(松崎))。市では、平成23年度までに4カ所へ増やす整備目標を定めています。22年度には遠山地区に1カ所完成する予定です

Q2 利用料は、どうなっていますか

A2 月単位の定額制です。利用回数によらず、一定の費用でサービスが利用できます

要介護度別利用料

要支援1	4,469円
要支援2	7,995円
要介護1	11,430円
要介護2	16,325円
要介護3	23,286円
要介護4	25,597円
要介護5	28,120円

※食費、宿泊費、日常生活費(おむつ代、理美容代など)は実費負担になります

Q3 サービスを利用するには、どうすればいいですか

A3 まずは介護保険課(☎20・1545)、「さわやかリビング成田」(☎24・7471)、「まんざきの家玲光苑」(☎

インタビュー

Interview

住み慣れた地域で暮らせるうれしさ

利用者 勝田 みち子さん(大竹)

教員として八生小学校に赴任したこともあります。まんざきの家では、教え子の親御さんで、当時PTAなどで共に頑張った人とも一緒になるんですよ。懐かしい昔話なども弾んで、楽しい時間を過ごしています。わたしは今は一人暮らしで、別棟に息子一家が住んでいます。息子たちの支えを受けながら自分でできることは自分でしますが、88歳になり一人で全部やるのは難しくなりました。まんざきの家を利用することで、住み慣れた地域で暮らし続けられるというのは、うれしいですね。



まんざきの家と近所の人に支えられて

利用者の家族 湯浅 静江さん(松崎)

おとしの5月ごろから夫の母がまんざきの家を利用しています。施設は自宅の隣。住み慣れた地区にある、自宅に近い雰囲気施設なので、母はお友達の家に出掛けるような気持ちで安心して利用できているようです。まんざきの家は、わたしたちにとっても大変ありがたい存在です。自宅では、夫とわたしの二人で母の面倒をみていますが、衝突やいざこざがあったり、介護のことで気分が落ち込んだり…。そんなときにはまんざきの家相談に行ったり、職員に間に入ってもらったりして、助かっています。また母はその日の気分によって一人で出歩いて、近所の人に迷惑を掛けることもあるのですが、皆さんの理解と協力があり、本当にありがたく思っています。



利用者の憩いの空間でありたい

さわやかリビング成田介護福祉士 堀越 千景さん

ときどき掛けてもらう「ここに來るのが楽しみ」という言葉に、思わず頬が緩みますね。「常に明るく元気よく」「表面上ではなく親身になって」「否定することなく気持ちを尊重」。いずれも利用者に信頼されるために欠くことのできないポイントだと思います。介護を必要とする人の環境・状態は実にさまざま。柔軟にサービスを提供できる小規模多機能型居宅介護は、住み慣れた地域で暮らし続けたいと願うお年寄りにとって、希望の光になると思っています。これから介護保険を利用しようとする人にも、施設の変更を検討する人にも、小規模多機能型居宅介護というサービスをぜひ知ってほしいです。



取材を終えて

住み慣れた地域で自分らしく暮らす元気なお年寄りに話を聞きながら、思わず田舎の両親の老後に思いをはせました。きっと自宅に住み続けたいと言うのでは…。お年寄りのそんな願いをかなえ、自分らしく生きるためのサポートしてくれる小規模多機能型居宅介護。今後、市内にも施設が増えると聞き、うれしくなりました。

- 37・7320へ相談してください。あらかじめ希望の施設と契約を結び、登録する必要がある。登録すると、ほかの事業所の介護サービスを利用することができなくなる場合もありますので、注意してください。
- Q4 認知症の母は慣れない空間に不安を感じて混乱してしましますが、大丈夫でしょうか
- A4 小規模多機能型居宅介護を提供する施設は、デイサービスなどのように「広い場所に大勢が」ではなく、「自宅に近い雰囲気の小規模な施設」で、「いつもの職員が対応」してくれれます。登録できる人数も決まっています。利用者は顔なじみばかりなので、お母さんも安心できるのではないかと思います。